

医薬理工融合による生命科学教育研究への富山発チャレンジ

Challenge for advancing integrated education and study of life science from Toyama

津田 正明¹, 畑中 保丸² (¹富山大学大学院医学薬学研究部(薬学), ²富山大学医学薬学研究部)

富山医科薬科大学、富山大学、高岡短期大学は平成 17 年 10 月に統合して、八つの学部を含む総合大学に生まれ変わりました。そして、統合を契機に、医学、薬学、理学、工学の各分野が相互に連携して新たな大学院教育研究の発展を目指して、平成 18 年 4 月に大学院医学系研究科、薬学研究科、及び理工学研究科を統合・改組して、新たに三つの教育部(生命融合科学教育部、医学薬学教育部、理工学教育部)と二つの研究部(医学薬学研究部、理工学研究部)から構成される大学院の教育研究組織を設置しました。特に生命融合科学教育部(博士課程)では、医学、薬学、理工学の教員 42 名が領域横断的に生命科学教育に携わり、医薬理工の融合教育を実践します。四つの領域が融合して大学院教育に関わる試みは全国的にも初めてのもので、困難な点も数多くあります。しかし、このような試みの中から融合教育研究実践のための真の方法論が構築されるものと期待され、現在、いくつかの観点からの試みを実施しています。本シンポジウムでは、生命融合科学教育部の組織構成と八名の教員からの研究紹介を行う予定です。本来、薬学部は複数の学問領域が融合した学部と言えます。この従来の領域横断性から、医学、理工学と連携してさらに発展した領域横断性をどう実質化していくか、そこがこの生命融合科学教育部に課せられた大きな課題かと思われます。